

ちちぶだより



初夏の小グランド 撮影 上田氏

2024年 第348号

◆令和6年度「虐待防止研修」に参加して	久郷 英伸 …… 2
◆第1回 子育て支援セミナー	大館 桂子 …… 3
◆令和6年度 夏祭り	星 湧人 …… 4
◆新規採用職員さんに聞いてみましたⅡ	加藤 稜久・木崎 聖捺 …… 5
◆発達が気になるお子さんを支援する支援者サポート事業に参加して	上小路希美・飯塚 七海 …… 6
◆各寮の様子 夏～秋編	かりん寮 加瀬 優奈 …… 7
	けやき寮 津留 信久 …… 7
	どんぐり寮 狩野 絢祐 …… 8
	くぬぎ寮 館内 圭子 …… 8
◆熊澤先生のゆる～く かた～く	
「なんでもありと、かんがえること」	熊澤 海道 …… 9
◆入所児童の動き・職員の動き・行事予定……………	9

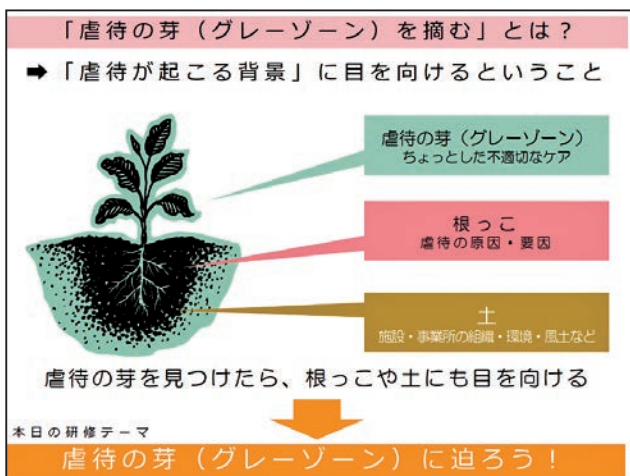
令和6年度 秩父学園「虐待防止研修」に参加しての感想

療育支援課 発達支援主事 久郷 英伸

今回の研修は、埼玉県発達障害協会の虐待防止・権利擁護委員会（以下「委員会」という）が、施設や団体等の依頼に応じて企画・運営する「障害者虐待防止研修（出前講座）」の半日カリキュラムを、委員会の委員長である 社会福祉法人 邑元会 しびらき施設長 相浦卓也氏が秩父学園仕様に編集し、講師として実施していただきました。

座学では障害者虐待の現状・基礎知識について触れられ、人材不足や安全管理を優先する等、日常業務の場面において利用者への配慮に欠ける支援を不適切な支援＝グレーゾーンとして整理し、グレーゾーンは虐待の芽であり広い意味で虐待であるという認識を持ち、虐待の芽を摘むことが大切であることを学びました。虐待の芽を摘むということについては、不適切な支援を植物の「芽」として見立て、その植物の「根っこ」の部分で不適切な支援の原因や要因と捉え、「土」の部分で事業所の組織・環境・風土として考えられることが図式で示されていました。虐待の「芽」を見つけたら「根っこ」や「土」にも目を向けることで、虐待が起こる背景を整理できることが図式により分かりやすく理解できました。その後、虐待の芽（グレーゾーン）について考えることをテーマにグループワーク・意見交換を行いました。有意義と感じたのは、他の寮や部署の職員とロールプレイを通してグレーゾーンについて意見交換が

できたことです。日常業務でよく見知った職員同士でも、今回のようなデリケートなテーマについて検討する機会は少ないため、自分の考えとはまた違う他の職員の気づきや価値観に触れることができました。支援業務において「これくらいは仕方ない」等の思い込みに陥ることは不適切な支援のリスクとなります。虐待の芽を摘むためには専門的な価値観を醸成し、常に組織内ですり合わせていくことが必要であると感じました。今回の研修を受講できなかった職員には、秩父学園内で構成している、虐待防止マネジメント委員が伝達研修を行い、10月30日までに学園全職員に共有しました。今後も、虐待防止に務めていきたいと思っています。



児童の人権を守るために

～児童の心と身体の安全・安心を保障しましょう～

児童の立場になって考えると…

- ・威圧的態度や怒鳴らないで欲しい。
- ・無視をしないで欲しい。
- ・嫌みを言うなど、心が傷つくことをしないで欲しい。
- ・名字に「さん」をつけて呼んで欲しい。
- ・強く押したり、叩いたり、蹴ったり、痛いことはしないで欲しい。
- ・差別をしないで、僕(私)を守って欲しい。

これらは、職員が児童を守ると同時に、職員自身を守ることにつながる行動となります。

令和3年3月 虐待防止マネジメント委員会

令和6年度 第1回 秩父学園 自閉スペクトラム症子育て支援セミナーを受講して

地域支援課 地域療育支援室 大館 桂子

秩父学園では自閉スペクトラム症やその他発達障害のある子どもへの療育の知識や支援方法を学ぶことを目的として、「子育て支援セミナー」を年2回開催しています。今年度第1回のセミナーは、8月3日（土）に鈴木 喜代子先生（社会福祉法人秀和会 富士見れんげこども園 園長・元 所沢社会福祉協議会 相談支援課 課長）を講師に招き、オンラインにて行いました。

『その人らしく地域で暮らすために』というテーマで、障害のある人が地域の中で生活しながら「こうしたい」を実現するための意思決定支援について、鈴木先生が支援の実践者として経験された事例を交えて分かりやすくお話してくださいました。

セミナーに参加し、支援される人の「こうしたい」「こうなりたい」に気づき、受け止め、実現につながる支援をし、意思を伝えたいと思ってもらえるよう

な実践者でありたいと感じました。また、地域で生活するためには利用できる制度を知っておくこともとても重要なため、アンテナを広く張りながら、知識を得られるよう努めたいと思います。

受講者からは「本人の意思を大切にすることの重要性を学ぶことができた。本人主体の支援を意識していきたい」「色々な経験をしながら、将来、親がいなくなったあと過ごせるように準備をしたいと思った」「親は、青年期以降は見守り、本人が必要としているときに支える役割に代わっていくと感じた」「ライフステージのポイントとなるところでの具体的なエピソードが参考になった」「我が子が『彼らしく幸せな人生』を歩めるよう、様々な方とのつながりを大切にしていきたい」などの感想が寄せられました。

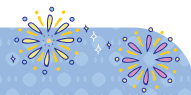
鈴木先生、ありがとうございました。

**その人らしく地域で暮らすために
～地域福祉の時代を生きる～**

社会福祉法人秀和会 富士見れんげこども園
鈴木 喜代子
(社会福祉士・介護福祉士・保育士)



令和6年度 秩父学園 夏祭り



療育支援課 けやき寮 星 湧人

令和6年8月22日に秩父学園『夏祭り』が行われました。当日は、秩父学園体育館にて、盛大に開催することができました。今年度は、平成30年度以来のご来賓の皆様をご招待しての開催でした。ご多忙の中、ご家族、ご来賓、ボランティアの皆様にお越しいただきました。

久しぶりの夏祭りということもあり、準備の段階から戸惑うことが多くありましたが、前回行った会場の写真を参考にしながら、やぐらの組み立て等を行い、なんとか会場作成することができました。

当日は、恒例の盆踊りから始まりました。ご来賓の「紫会」の皆様がお手本となって踊っていただきました。「所沢音頭」「炭坑節」「ドラえもん音頭」の3曲が流れ、生の太鼓の音も会場に鳴り響きました。初めは見ている児童が多かったですが、次第に踊りの輪に加わる児童が増え、多くの児童と職員がやぐらを囲んで踊ることができました。



次は音楽に合わせて自由に児童が演奏する太鼓アトラクションです。大勢の前での演奏ということもあり、児童の皆さんがステージに来てくれるか心配でしたが、いざ始まると、多くの児童が来てくれました。児童の皆さんは自分の思うままに演奏しており、演奏後には会場の皆様に盛大な拍手をもらいました。

そして、「天理教」のみなさんによる発表がありました。自作の楽器を用いての演奏が行われました。児

童たちは初め座って見ていましたが、サプライズでひょっとこのお面を被った踊り手が登場すると、音楽に合わせて身体を動かす児童や踊り手の近くで踊る児童もいました。また、最後には天理教のみなさんと一緒に演奏することができました。初めて見る楽器に興味津々の児童が多く、とても上手に演奏することができました。演奏後は誇らしげな顔をしていました。



最後は、花火で締めくくりました。当日は小雨がふり、花火の中止も考えられましたが、皆さんの日頃の行いのおかげか夏祭りが始まる頃には天気も良くなりました。打ち上げ花火や噴き上げ花火等合わせて50発程度の花火が打ち上がりました。安全面やどうすればきれいに見えるか等職員が話し合って仕掛けを作成し、その甲斐もあり「きれい」や「すごい」と言ってくれる児童が多くいました。

初めて起案をやらせていただいたことで指揮を執ることの難しさを感じると同時に、学園職員やボランティアの皆様の存在がとても心強く、無事開催を迎えられたことへの感謝でいっぱいです。今年度は、コロナウイルスに考慮して模擬店はありませんでした。しかし、気温も高く、熱中症の予防の為、水分補給のジュースを配布しました。次年度へ向けて、今年度の開催を受けての改善策を繋いでいきたいと思っています。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

新規採用**職員さんに
聞いてみましたⅡ**

前号に掲載仕切れなかった、新規採用職員の回答を載せさせていただきます。



- ①秩父学園に就職したいと思った動機
- ②秩父学園の第1印象 ③6月10日時点での感想
- ④今後こんなことをしてみたい、こんな職員になりたい
- ⑤自由記述です。

療育支援課 けやき寮 加藤 稜久

①大学3年生の時に、この秩父学園で実習をさせていただいたことがきっかけです。実習を通して児童と接することの楽しさや児童支援の奥深さ、やりがいを感じられる場であると実感し、卒業後入職したいと思っていました。採用試験があることを知った時は「絶対に入職する!」と強い意志を持って挑んでいたことを覚えています。

②広大な土地に体育館やプールと学校みたいと思いました。夏は虫がいっぱい出ると聞いていたので、ビクビクしていました。

③大変さがどんどんにじみ出てきたように感じます。散歩や入浴介助、日常生活の中で様々な困難と遭遇し、壁にぶつかることも多いです。それでも、先輩

職員の方々はじめ、児童にも支えられ2ヶ月過ごすことができました。支援の現場は大変なことばかりではなく、児童から笑顔もらえる場であると感じます。児童の笑顔や楽しそうに生活している様子を見ると自然と笑顔になり、とても癒やされます。児童の成長を感じることができた際は「この仕事を選んでよかった」と思い、この思いを入職2ヶ月で感じられたことが何よりの喜びです。

④先輩職員の方々が培ってきた知識や経験を吸収し、冷静かつ臨機応変に対応できる職員になりたいです。また児童とともにたくさんの経験を育める職員になりたいです。

療育支援課 どんぐり寮 木崎 聖捺

①障害を抱え、生きづらさを感じている子供に寄り添いたいと思ったからです。私は今まで様々な職場で、障害を抱えて、自分の意思を伝えることが困難な人、集団生活に慣れず苦しい思いをされている人など、生きづらさを感じている方々に出会ってきました。そういった方々と意思が通じ合ったり、適切な支援で明るい表情が見られたりすることにやりがいを感じ、児童期という多感な時期の子供と一緒に過ごせる秩父学園に就職したいと思いました。

②児童一人一人に合った余暇を常に模索して提供している印象を受けました。現状維持をするのではなく、日々成長していく児童が安心して過ごせる取り組みが行われており、児童と職員で話し合いをしながら約束事を決め、楽しめる余暇を考えている場面

が多いところが素敵だなと感じました

③わかば祭などの行事もあり、普段だと見られない児童の新たな一面や楽しそうな表情を見られてとても嬉しかったです。今後も、時間を共有する中で、児童が成長し、大人になっていく姿を見逃さないようにしながら児童指導員として関わっていきたいと思います。

④常に相手の立場に立って、物事を考えられる職員になりたいと思っています。

⑤児童と関わる中で、日々沢山のことを学ばせていただきながら過ごすことができます。慣れないことも多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、一人一人の気持ちに寄り添いながら、精一杯支援していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

*数年経って、この感想を見直した時にどう感じるのでしょうかね。彼等の活躍に、期待です!

令和6年度 発達が気になるお子さんを支援する支援者サポート事業に参加して

療育支援課 かりん寮 上小路 希美・地域支援課 地域療育支援室 飯塚 七海

秩父学園では、発達が気になるお子さんを支援するサポート事業（以下職員派遣とする）として、講師派遣、お子さんの見立てや環境設定、ケース検討会への参加等を全国の知的障害児等を支援している施設、保育所等に職員を派遣しています。その事業の一環として、秩父学園職員の人材育成も兼ねています。

今回は、この事業に参加した若手に事業に参加しての感想を聞いてみました。

かりん寮 上小路 希美

私は、児童発達支援事業所に行かせていただき小集団の療育と個別療育の場を見せられました。

秩父学園では私自身はまだ入職してから2年経っておらず、生活寮での児童支援については日々先輩職員の方々に相談しながら取り組んでいるところでした。その私が支援に対して困っている方々のもとへ行き、フィードバックやフォローアップを行うことになり、最初はとても不安があるスタートでした。

実際に療育の場を見せいただくと職員の方々が児童に向き合いながら、課題も工夫しながら提供され、1つ1つ意味ある課題になっており、とても勉強になりました。また「この時はこのような声かけじゃない方が良いのでは？」説明の際はこうした方

が解りやすいかも」と感じた際に、寮での支援の際にできていたのだろうか、と自分の支援を振り返るきっかけにもなりました。

一緒に派遣に行った職員と様子など情報共有を行った際に、気がつかなかった視点や見立てがあり、自分が児童の行動観察をする際に活かしていきたいと思いました。

不安からのスタートでしたが、実際に始めるとフィードバックやフォローアップをするにあたり自身の支援を見直すことができたり、新しい視点を持つことができたりと学ぶことが多くありとても良い経験ができました。

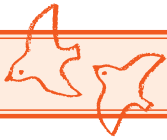
**療育支援室 飯塚 七海**

私は保育園に2日間、訪問させていただきました。1日目は、行動が気になるお子さんの様子を聞き取り、そのお子さんの様子を見学させていただきました。見学後、職員同士でそれぞれの見立てと具体的に取り組めそうな支援を話し合いました。自分の注目していなかった視点で捉え直すことができたため、とても勉強になりました。また、自分が見て感じたことを言語化し、アウトプットすることで、自分の見立てや考えをより深め、日々の支援を見直すことができました。2週間後、そのお子さんに対する見立てと実際に取り組むことができそうな支援をお伝えしました。助言を行う際は、よかった支援などを併せてお伝えすることで、依頼者の方が構えることなく受け入れてくださっており、伝え方も重要であると学びました。保育園では、視覚的な支援や縦割

り保育などが取り入れられており、日々の療育の中で活かしたい支援が多く行われていたため、自分の支援の引き出しを増やすこともできました。

職員派遣では、実際にその場に足を運ぶため、普段保育に携わっている方から詳しく話を聞くことができます。さらに、それらを取り巻く環境をも支援の様子を知ることができるため、背景を理解したうえで助言ができると実感しました。また、他の施設での支援を知る貴重な機会となり、新たな刺激を受けることができました。

また、学んだことを一度に取り入れるのではなく、できるところから取り組むことや、学んだことを意識して子どもと関わるなどのスモールステップで支援を進めていくことが必要なのだと分かりました。私も、日々の療育の中で子どもとよい関係を作ることを目標に、学んだことを実践していきます。



各寮の様子 とっても暑かった夏～初秋編



かりん寮

今年の夏は、学校のプールが中止になることが多々ある程、暑さが厳しく、また、雨予報の日は豪雨になるなど、激しい天候となりました。そんな暑い夏から初秋のかりん寮の児童たちの様子をお伝えします。

かりん寮の女の子たちは、プールが大好きで、平日の午後は毎日プールを満喫して過ごしていました。プールでは、くぬぎ寮の他児童と一緒に泳ぐ中で、泳ぐことだけでなく会話も楽しんでいる様子が伺えました。

元入間わかき高等特別支援学校の教員だった長谷川先生による音楽活動では、かりん寮のホールで先生にピアノを弾いてもらいました。クラシックや童話など様々なジャンルの曲を巧みに弾く長谷川先生の音楽の世界に子どもたちも引き込まれている様子でした。子供たちも知っている曲では、熱唱したり、曲に合わ



せてダイナミックにダンスをしたりしていました。

夏休みに2回、かき氷会の実施がありました。1人2杯分のチケットをもらい

好きな味のかき氷を楽しんでしました。かりん寮女児1名が、かき氷の受付のお手伝いをしてくれました。エプロン、三角巾など身だしなみを整えて、かき氷を食べにきた児童からチケットをもらって「何味にしますかー?」と言って、受付のお仕事をしっかり行っていました。



夏休み後半には、コロナ明け始めて全体で夏祭りを行いました。浴衣や甚平を着て、櫓を囲って盆踊りをしたり、花火を見たりとお祭りを堪能していました。

毎日のプールに加えて、行事が盛りだくさんの夏休みとなりました。

加瀬 優奈

けやき寮

コロナウィルスによりしばらくの間、夏祭り等の行事を見送っていましたが、ご家族やボランティアの方々もお招きし、5年ぶりに秩父学園で夏祭りを開催することが出来ました。太鼓演奏などボランティアさんのご協力もいただき、盛大に盛り上がり、けやき寮の児童皆さんはそれぞれに楽しく過ごされました。また当日は天気も良く、お祭りの最後には迫力の花火にて夏の夜を楽しむことが出来ました☆

7月19日(金)秩父学園でのプール開きとなりました。連日の猛暑で、プールの水が気持ちよく、泳いだり、潜ったり、浮かんたり、それぞれの楽しみ方で、楽しんでいました。

7月26日(金)にスイカの種飛ばし大会がありました。みんなでスイカを美味しく食べたあと、誰が遠くまで種を飛ばせるか競いました。見事けやき寮の児童が1位になり、景品のアイス进行きいただき、美味しく食べていました。

かき氷大会が、7月31日(水)、8月7日(水)、8月28日(水)の3日間に渡って開催されました。わかばホール前に集まって、かき氷を食べるといもので、みんなでひんやりと涼しいひとときを過ごしました。



夏の暑さにも負けず、7月31日(水)に小中学生、8月5日(月)に高校生を対象として、バーベキューをしました。

職員と一緒に買い出しにも行きました。

買い物ではみんな食べたいお肉を時間をかけて選んでいました。これぞ「男飯」のごとく、たっぷりの焼き肉のタレがかかったお肉をアツアツのご飯の上にのせて、美味しそうに勢いよく食べていました。みんなで好きなお肉をお腹いっぱい食べて今年の猛暑を乗り切るためのスタミナをつけることができました！今年の夏休みは様々な行事を開催することが出来、楽しく過ごすことが出来たと思います。

津留 信久

どんぐり寮

一学期が終わり、みんなが楽しみにしていた夏休みが始まりました。特にプールは人気で、心待ちにしている児童がたくさんいました。浮き輪を使ってプカプカ浮いて遊んでいたりと、プールに潜って水面をみて遊んでいたりと児童がいました。今年は天気が不安定で中止になることもしばしばありましたので、来年はもっとたくさん入れると良いなと思います。

プール以外にもイベントが盛りだくさんでした。かき氷を児童のみんなで食べた際には、おかわりをする児童が多く、とてもおいしそうにかき氷を食べていました。練乳が大人気だったようです。その他にも夏の風物詩であるスイカ割りを行いました。なかなかスイカを割ることができず残念がっている児童が多い様子でしたが、今年のどんぐり寮の児童の絆で最後は割ることができました。みんなで割ったスイカはとてもおいしかったようで、あっという間

に完食することができました。8月23日には、ご家族も参加することのできる夏祭りも開催されました。音楽に合わせて盆踊り等を踊ってみたり、クライマックスの花火を楽しそうに見つめていたりする児童の姿を見ていると、夏の終わりを感ぜさせました。



今年の夏休みもあっという間に終わり、どんぐり寮の児童は元気

に9月10月を過ごしています。今年も年末が近づき、生活環境が変わる児童も増えてきています。みんなと一緒に過ごした日々は児童にとっても、職員にとっても、とても大切な宝物になったと思います。ご家族の皆様、関係者の皆様におかれましては、年末に向けてご多忙な日々をお過ごしのことと存じますが、くれぐれもご自愛ください。

狩野 絢祐



くぬぎ寮

今年の夏休みは44日間ありました。連日猛暑日の続く大変暑い夏でしたが、くぬぎ寮の児童は、暑さに負けないくらい元気いっぱいに過ごしました。40日以上長い夏休みを退屈せずに過ごせるように、くぬぎ寮では定期的にお楽しみを計画しました。マクドナルドへの外食、かき氷大会、スイカ大会、菓子喰い競争、ミニキャンプ、コカコーラ工場見学、知育菓子大会などを行いました。



昨年も大人気だったかき氷大会は、イメージが持っている児童も多く、出発前から「今日

は何味にしようかな」「練乳かける～」など、楽しみにしている様子が伺えました。暑い中、みんなで食べるかき氷は格別においしかったことと思います。おかわりチケットもあったので、違う味も楽しむことができました。

こちら昨年好評だったミニキャンプを、今年は食

事メニューをバージョンアップして開催しました。炭で火を起こし、焼き鳥やとうもろこしを焼き、本格的なバーベキュー気分を味わいました。デザートにはアイスを食べ、最後は手持ち花火をして締めくくりました。

そして、夏といえばプール！夏休みの午後は毎日学園のプール活動に参加しました。今年はとにかく



暑かったので、水が冷たすぎるということはほとんどなく、気持ちよく入ることが出来ました。浮き輪でのんびり浮いて過ごす児童、歩いたり潜ったり

する児童、真剣に泳ぐ練習をする児童など、思い思いの過ごし方で参加することができました。

9月からは二学期がスタートしました。始まってからもしばらくは暑い日が続きましたが、皆さん元気に登校しています。

館内 圭子



熊澤先生の「ゆる～く かた～く」

「なんでもありと、考えること」

国立障害者リハビリテーションセンター病院 歯科医師 熊澤 海道

気候変動に身体が追いつかず弱りながらコラムを書いている10月中旬の熊澤です。

前回、「なんで？」と思って理由を探り「じゃあどうする？」と考えていきたい！みたいなことを書かせていただきました。今回はこの「じゃあどうする？」は「なににする？」ってことを深掘りしてみたいと思います。ズバリ熊澤の考えは「なんでもあり」となります。全然深掘ってない！とのツッコミが聞こえてきそうですが、以前、「人を知る」や「なんで？と考える」といった内容を書かせてもらいました。そのようにして、その「人」について理解が深くなると「こんな方法だと合ってるんじゃないか」「この方法は多分怒るな」など色んな「方法」が浮かんでくるのではないかと思います。そして、その「方法」には必ず「評価」とそこから導かれる「理由」が存在しているはずです。それこそが「なんでもあ

り」の正体だと熊澤は考えます。しかし、支援をしていく中で忘れてはならないのは生活の様々な場面で多くの人が関わっているということです。「なんでもあり」とはいえ、独りよがり意見押し通して周囲とのバランスが崩れてしまっはうまいのかなと思います。だからこそ、色々な人と対話をして俯瞰的に考えたり、視野を狭くしないことが必要になってくるのでは！と思う今日この頃です。おっと、熱く語っていたら文字数が…ということで、次回「多職種連携ってしたいよね」乞うご期待！

(独りよがり)



❖入所児童の動き

8月に男児1名、女児1名が埼玉県内、女児1名が茨城県 11月に男児1名が埼玉県内に移られました。

❖職員の動き



令和6年10月1日付
浜 渉
庶務課
(国立きぬ川
学院より)



令和6年11月1日付
高山 香苗
庶務課 給食係
新規採用

編集後記

実は、前号から「ちちぶだより」が大きく変わりました。皆様お気づきになりましたか？

(仲)

行事予定

- 12月25日 クリスマス会
- 12月26日 100万人のクラシックライブ
- 1月1日 新年の集い
- 1月25日 自閉スペクトラム症子育て支援セミナー
- 1月31日 職員研修報告

発行日 令和6年12月6日

発行 国立障害者リハビリテーション
センター自立支援局 秩父学園

住 所 埼玉県所沢市北原町860

TEL 04-2992-2839

FAX 04-2995-2253

chousa-chichibu@mhlw.go.jp



《秩父学園児の歌》



一、わかばゆれ

ひかりかがやく

むさしのに

のびゆくわれら

ちちぶがくえんじ

われらわれら

ちちぶがくえんじ

二、ふじのみね

たかくそびえて

みそらすみ

いそしむわれら

ちちぶがくえんじ

われらわれら

ちちぶがくえんじ

